

Comparison Game

【応募者】○眞島杏佳 山下姫舞 森明衣 南條朱璃（純真学園大学）

【指導教員】新井 正一（日本科学大学）

目的	子供たちに被ばくの大きさを楽しく理解してもらいたいから。
対象（1つに限定）	小学校（低・㊦・高）・中学生・高校生
参考文献、使用する実験道具等	自然・人工放射線からの被ばく線量-環境省 (https://www.env.go.jp/chemi/rhm/kisoshiryo/attach/201510mat1s-01-6.pdf) カード（紙）
キーワード	カードゲーム

1. アピール・ポイント

単純なルールのカードゲームを用いることで小学生にも放射線の存在を知ってもらい。また、放射線を用いた検査以外でも被ばくすることを理解してもらい、ゲーム感覚で放射線を身近に感じてもらうことができるカードゲームです。

2. 内容

1) 教材

本カードゲームは食べ物、CT、胸部撮影などの被ばくの大きさを当てるゲームです。やり方の詳細は以下に示します。また、カードのイメージ図は図1に示します。

- ①じゃんけんをしてカードを引く順番を決める。
 - ②山札から最初のカードを1枚引く。
 - ③順番が1番目の人が山札からカードを1枚引き、順番が2番目の人に見せて何の絵がかかっているか言う。
 - ④1番目の人は①で引いたカードの絵よりも被ばく量が大きい小さいか答える。
 - ⑤当たっていればそのカードを獲得できる。
- その後③～⑤を繰り返す。
- ※④で比較するカードについては2人目以降、前の人引いたカードになります。

2) ブース実演

①ゲームの説明

②ゲームの実演

③まとめ

3. 注意事項

CTなど放射線を用いた検査は撮影部位など条件によって被ばく線量が異なるためその点においては誤解を招く可能性があります。

4. まとめ

本カードゲームをプレイすることによって、食べ物など身の回りのものからも被ばくすることを理解してもらい、放射線を危険なものではなく意外と身近なものであるということを知ってもらうことができると考えられます。



図1. カードのイメージ